

文書館 もんじょかん ニュース

山口県文書館
Yamaguchi Prefectural Archives

No.39



CONTENTS

- 表紙「山口県行政文書」の一部 …………… 1
- 国指定重要文化財 山口県行政文書 …………… 2・3
- 市町村公文書の保存を支援します!! …………… 4・5
- 写真MEMO2004
文書館デイズ・第30回全史料協全国大会 …… 6
- 閣龍世界博覧会の図
海図を活用した地域学習 …………… 7



今回対象となる行政文書が作成・保存されていた旧県庁舎。現在の県庁舎には昭和59年に移転。

国指定重要文化財

山口県行政文書

山口県の公文書が国の重要文化財へ

このたび、当館が所蔵している「山口県行政文書」(総点数一三、五四九点)が国の重要文化財(歴史資料)に指定されることになりました。都道府県が所有する行政文書としては、全国で京都府に続く二番目の指定となります。

この「山口県行政文書」は、明治期以降、山口県が県政を行う上で作成・收受し、保存してきた公文書です。近代の山口県を知る上で欠くことのできない基礎資料であるとともに、山口県が明治期においては地租改正をはじめ明治新政府の「政策の実験場」としての役割を果たし、また大正・昭和期においては瀬戸内海地域を中心に農林水産業型から鉱工業型への産業構造の転換を経験したことからも、近代日本のあゆみを考える上で重要なかつ貴重な資料といえます。

先見性とたゆまざる努力

～伝来・蓄積の経緯～

明治四年(一八七二)十一月十五日、岩国・豊浦・清末・山口の各県が廃止され、新たに現在の県域を持つ山口県が誕生しました。この後、萩の乱や日清・日露戦争、第二次世界大戦及び連合国軍統治の時代を経て、現在に至るまで県行政は多くの文書を作成・保存してきました。

行政文書は通常、保存期間が経過後、廃棄されます。しかし山口県では、戦前の県史編纂所において、重要な郷土資料として行政文書が積極的に収集され、同編纂所が廃止された後も、県立山口図書館郷土資料室が収集を続けるなど蓄積が進め

られました。

昭和三十四年(一九五九)、旧萩藩主毛利家から寄託された毛利家文庫や行政文書の本格的な保存・利用施設として全国初の文書館が設立されると、県庁内に保存されていた文書が次々と文書館へ引き継がれました。また昭和四十二年(一九六七)には、県政百年を記念した「山口県政史」編纂が決定し、当時県庁文書課書庫に保存されていた戦前の永年保存文書が、実際に編集を担当する文書館へ移管されるなど、県庁文書の蓄積がさらに進みました。そして現在も、文書館では県庁文書の内、歴史的・文化的価値が高い文書を選別し引き継いでいます。

火災や戦災、人為的な廃棄行為により、多くの行政文書が失われてしまった他県の事例に思いをはせる時、このように県の草創期から現在まで途切れることなく行政文書が保存されている事実、これもまた山口県が誇るべき一つの歴史であることに気がつきます。

様々な歴史を語る貴重な資料

～「山口県行政文書」の内容～

今回、指定の対象となったのは、地方自治法公布以前である昭和二十二年(一九四七)三月までの文書です。その内容は、大きく「山口県庁文書」(一二、五九七点)と「郡役所文書」(九五二点)に分かれます。

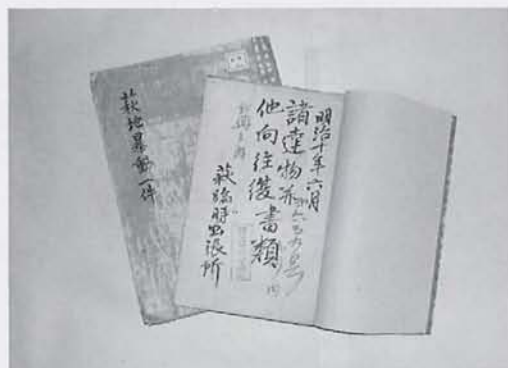
「山口県庁文書」は県庁で作成・收受された文書で、中央各省とのやりとりを示す往復文書、さらに士族反乱として有名な萩の乱関係文書、各村戸長からの報告や統計関係文書、鉄道敷設や県立施



鉄道関係の文書。路線
計画図などが含まれて
いる。



明治期中央各省との往
復文書。地租改正や戸
籍・租税など様々な内
容を含む。



萩の乱関係文書。事件
の詳細を伝える当時の
電報も綴じられている。

行政文書の保存状況。今回指定を受け
た文書は全て文書館地下二階書庫に保
存されている。(写真は書庫の一角を撮
影したもの。)

地域をつなぐ記憶の証として
文化財指定が問う意味

最近、「アーカイブズ」という言葉が広く使用されるようになりました。主に「過去の記録」という意味で使用されているようですが、この「アーカイブズ」という言葉は、欧米では文書館及びそこに保存される文書・記録を示す言葉なのです。今回指定されることとなった「山口県行政文書」は、文書館が所蔵するアーカイブズの中でも、

設建設などの土木建築関係文書、防長米や小作争議、耕地整理などの農業関係文書など、国政の重要事項から、県内各地域の歴史の一コマを示すものまでバラエティに富んでいます。また「郡役所文書」は郡役所で作成・收受され、大正十二年(一九二二)の郡制廃止に伴い県庁へ引き継がれたものです。これだけ多くの点数が残っている事例は全国的にも少ないと言われています。



単なる歴史資料ではなく、我々の先人達が築き育ててきた山口県という地域の、かけがえのない記憶の証に他なりません。これは言いかえれば県民の共有財産であり、今後進むべき道を示す知識の宝庫なのです。

今、社会が大きく変化しています。高度情報化

社会が到来し、市町村合併という地域再編が山場を迎えています。「山口県行政文書」の重要文化財指定は、効率化の名のもとに行われる安易な文書廃棄への警鐘とも言えるでしょう。

(伊藤)

保存を支援します!!

文書の保存支援をするために、
文書の所在と現状確認の調査を実施しました。



整理された文書群

今回の合併に先立つ「昭和の大合併」(昭和三十年に実施)では、それ以前の市町村が作成した公文書を適切な評価・選別を行わずにそのまま廃棄したり、不十分

な管理のために散逸してしまったりとされています。「平成の大合併」に際しても、仮に市町村の公文書が適切な過程を経ずに大量に廃棄されることになれば、

■ どうなる? 公文書の行方



新市誕生に向けて

現在、県内の多くの市町村で「平成の大合併」が本格化しています。すでに八市一町が誕生し、今後更に二市の誕生と一地域の合併が予定されています。このまま計画通り合併が進むと、かつての五六市町村が一挙に二〇市町村にまで減少します。

■ 進む市町村合併

現在、県内の多くの市町村で「平成の大合併」が本格化しています。すでに八市一町が誕生し、今後更に二市の誕生と一地域の合併が予定されています。このまま計画通り合併が進むと、かつての五六市町村が一挙に二〇市町村にまで減少します。

将来、それぞれの地域の歩みを知る重要な手がかりを失うこととなります。再び

■ 研修会の開催

そこで県は、市町村合併の支援プランの中に、市町村公文書の保存を支援していくことを加えました。

その第一弾として昨年五月に、市町村で公文書を管理・保存している職員を対象とした「公文書管理・保存担当者研修会」を開催しました(主催は県市町村課・県教委文化財保護課(県文書館))。

この研修会では、合併前の市町村が作成した公文書を新市町村へ確実に引き継ぎ、保存していくことが非常に重要であることを学び

この失敗を繰り返すことだけは絶対に避けなければなりません。



研修会の模様①

■ 文書館による保存支援

またこの研修会では、文書館による市町村公文書の保存支援についても説明しました。具体的には、①「平成の大合併」以前の市

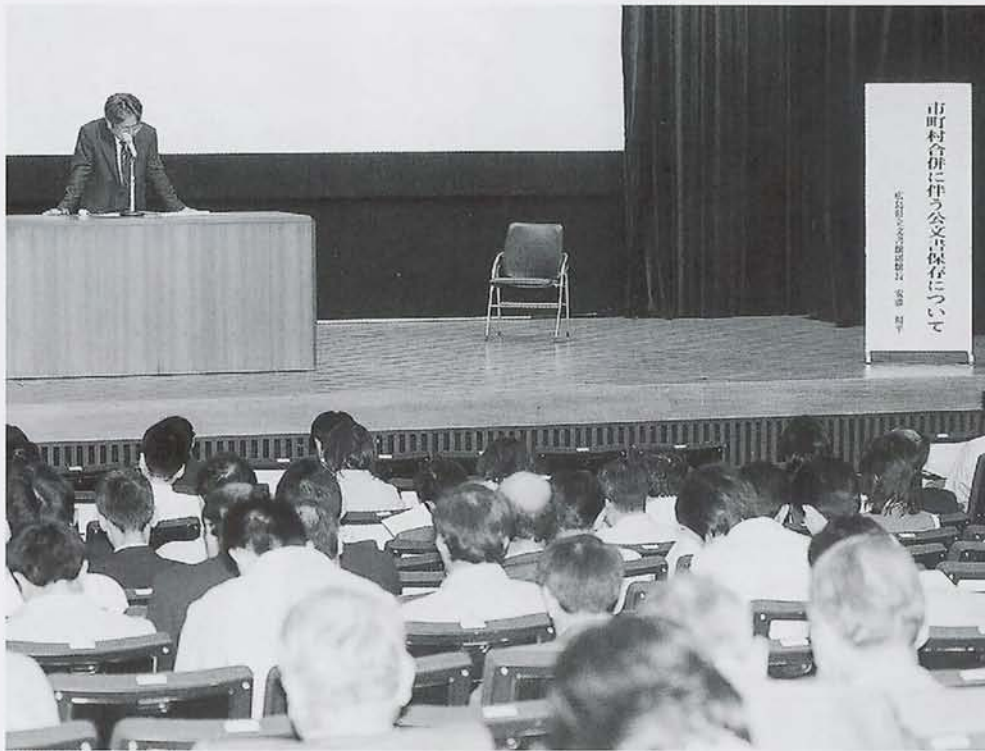
町村が作成した公文書の保存支援と、②「昭和の大合併」以前の市町村が作成した公文書の保存支援の二本柱です。

ました(写真左上は広島県立文書館副館長の安藤福平先生による講義の様相です)。

市町村公文書の保存

今年度文書館では、市町村公文書
「昭和の大合併」以前の市町村が作成した公文書

この二本柱の支援の内、
今年度は②の支援を行うこととし、「旧市町村役場文書の所在調査」と銘打った書の所在調査」と銘打った調査を実施しました。



研修会の模様②

旧市町村役場文書の所在調査

この調査は県内の全市町村の協力を得て行いました。まず調査に際しては、各市町村に対し、事前に旧市

町村役場文書の保存場所についての予備調査と、保存されている文書量等のデータ提出をお願いしました。それを基に当館職員がすべての保存場所を訪問して、その現状や文書の保存状況を調査しました。調査終了後には、市町村の担当者との今後の保存についてのアドバイスや意見交換を行いました。

調査を終えて

約一五〇か所に保存されている旧市町村役場文書の保存状態は、当初予想していた以上に良好でした。各市町村でそれぞれ保存に取り組んでいた結果によるものだと思います。

また今回の調査で、今後の文書館による保存支援の活動に励みとなった事例がありました。そのいくつかを紹介すると、研修終了後、未整理だった文書を段ボール箱に収納して保存・整理に踏み出した事例、調査後のアドバイスを受けて、自ら文書一点ずつの目録を作成した事例、などです。



調査の模様

計の結果、一五〇か所を越える調査地を訪問しました。

今年度に引き続き、来年度も県内では市町村合併が進むようです。当館では今後も、市町村の公文書が適切に管理・保存されるための支援を進めていきたいと考えています。

(吉田)

第4回文書館デイズ

monjokan days 4th

平成十七年一月

二十一日(金)

二十三日(日) 第

四回文書館デイズ

「ポスター・映像

に見る懐かしの山

口県の昭和」を開

催しました。今回

は館蔵のポスター

や映画フィルムな

どの行政資料を通

して、文書館業務

と資料保存の重要

性をアピールしま

第4回文書館デイズ

ポスター・映像に見る
懐かしの山口県の昭和

2005.1.21(金)→23(日)

懐かしの
ニュース映画館
昭和28年からの
「県政ニュース」
23本を一挙上映!

- ◆古文書なんでも相談 ◆文書館書庫見学ツアー
- ◆特別資料展示「ポスターにみる戦後のやまぐち—山口国体まで—」
- ◆ギャラリートーク「ポスターで戦後を語ろう」講師:佐々木克己先生



「県政ニュース」38号(昭和38年)の「保健婦さん」より

した。特別資料展示「ポスターに見る戦後のやまぐち—山口国体まで—」では、広報ポスターの「県政ニュース」(昭和二十五〜三十一年)三二点を展示しました。手作りの味わいがあるポスターは魅力満載で、多くの方々が興味深く見入っておられました。ギャラリートークでは、実際にポスターを作られた元県庁職員の前佐々木克己さんに製作の裏話や当時の社会情勢を語っ

写真MEMO 2004



ていただきました。また、「懐かしのニュース映画館」では、戦後復興期からの県下各地の映像を収めた「県政ニュース」(昭和二十八〜四十年)二三本を一挙上映しました。一度見始めたら座席を立つ方が少なく、懐かしさや驚きを感じつつ熱心に観覧される姿が目立ちました。特別展示の来場者は三〇〇名を超え、大好評の内に終了しました。



ギャラリートーク風景

第30回全史料協全国大会が開催されました!

平成十六年十月二十七日(水)〜二十九日(金) 山口市の県総合保健会館で、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(全史料協)全国大会が、創立大会の地山口市で開催されました。第三〇回記念の今大会では、「全史料協の三〇年—新しい文書館像を求めて—」のテーマで、パネルディスカッションや研修会など熱心な討議が行われました。

閣龍世界博覧会の図

毛利家文庫絵図中に「閣龍(コロンブス)世界博覧会の図」と題した史料があります。内容は

一八九三年(明治二十六)にアメリカ・シカゴで開催された万国博覧会の賞状とメダルです。

万国博覧会は一八五一年(嘉永四)にイギリス・ロンドンで

最初に開催されました。わが国は、フランス公使のすすめによ

り、一八六七年(慶応三)のパリ万博に、徳川幕府が陶器・漆

器・和紙などの特産品を出品しました。明治政府としては一八

七三年(明治六)に開催されたウィーン万博が最初で、全国か

ら陶磁器や織物などの美術工芸品を中心に収集して、出品しま

した。また、大工を派遣して、神社や日本庭園を組み合わせた

パビリオンを建設しています。万博には先端の工業製品をはじめ

め、諸外国の物産が出品されたことから、万博への参加は「西

洋各国の物産に触れ、機械技術

を伝習す

る場」、

また「日

本製品の紹

介により、輸出増加の糸口となる」として、参加を推し進めました。

一八九三年のアメリカ・シカ

ゴ万博は、コロンプスの大陸到達四〇〇年を記念して開催され

市内と会場を結ぶ高架電車が登場し、空中観覧車が観客を喜ば

せました。わが国も平安期から江戸期の建築様式をミックスした日本館(鳳凰殿)を設けて参

加しています。前述の賞状とメダルは毛利家から出品された

「婦人書齋及び居間附属家具装備品」と「婦人の服装・楽器」

に与えられたもので、「日本貴婦人ノ優美典雅ナル生活状況ヲ

視知セシムル」ものとして、また出品物の美術品としての価値

を評価され、表彰を受けました。



(吉本)

海図を活用した地域学習

海図は海域の水深、障害物な

どの他に、沿岸の土地利用についても描かれています。日本に

おける海図は陸図(地形図)に先行して作成されており、明治

五年(一八七二)に第一号「陸中国釜石港之図」が刊行されて

います。

写真は、「笠戸浦」(明治十八年刊行、明治二十九年五月改正、縮尺二四七五六分一)です。

海岸付近に注目すると工場が建設される前の土地利用がわかり

ます。この地域における五万分

一地形図の刊行は、徳山(明治三十四年)、光(旧室積、明治三十五年)が始まりですので、

両者を比較することによって、明治初期からの地域の変貌が明

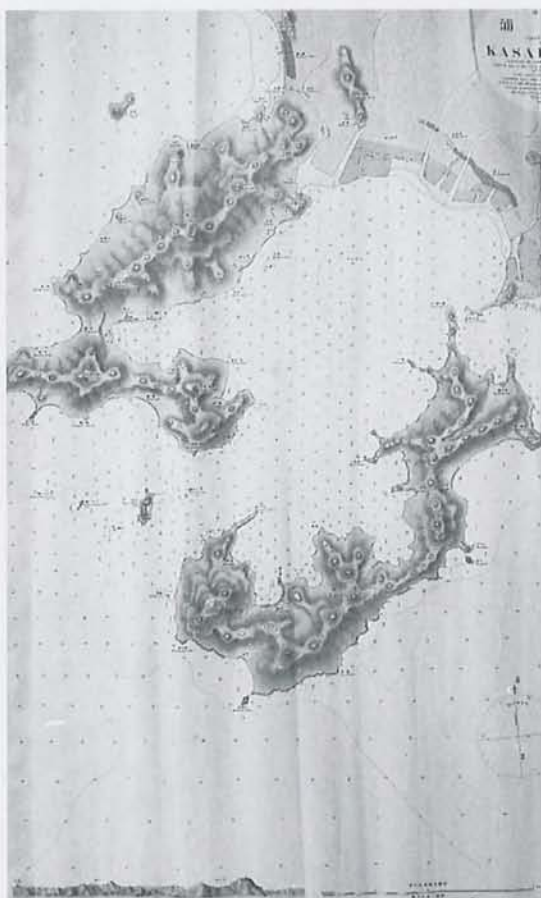
らかにわかります。

当館は明治、昭和初期に刊行された海図を所蔵しています

(当館研究紀要第三二号参照)。

地域学習の教材には是非ご利用ください。

(河村)



所蔵文書概要

山口県文書館では所蔵している約44万点の文書を次の5群に大別しています。

藩政文書

江戸時代の藩政に関する文書群です。萩藩の毛利家文庫と徳山藩の徳山毛利家文庫、置県時に藩庁から県庁へ引継がれた県庁伝来旧藩記録の3群が中心です。このほか、毛利家が進めていた幕末維新期の萩藩主毛利敬親（忠正公）・毛利元徳（忠愛公）の伝記編纂のための両公伝史料と、戦国期の毛利元就・吉川元春・小早川隆景の事績編纂のための三卿伝史料などがあります。

- **毛利家文庫 (32,658点)**
萩藩の公記録を毛利家編纂所で整備した文書群。
- **徳山毛利家文庫 (14,391点)**
支藩徳山毛利家の文書群。
- **県庁伝来旧藩記録 (8,010点)**
置県時に藩庁から県庁へ引継がれた文書群。
- **山口小郡宰判記録 (647点)**
山口・小郡宰判の記録。一部に大島宰判記録を含む。
- **三卿伝史料 (1,980点)**
三卿（元就・元春・隆景）の伝記編纂用に作成された写本類。
- **両公伝史料 (3,176点)**
毛利敬親・元徳の伝記編纂用に作成された写本類。

諸家文書

山口県内の諸家、企業、団体、個人などによって持ち伝えられ、文書館に寄贈・寄託された文書群です。山口県の公文書と並んで、県民の歴史を豊かに蘇らせてくれます。江戸時代の武士や、村や町の役人を勤めた家、さらには、明治以降、議員や吏員、学者を輩出した家など、様々な諸家の文書があります。

- **安部家文書** 山口市 町年寄 (1,544点)
- **有光家文書** 下関市 神主 (124点)
- **小田家文書** 柳井市 町年寄・代議士 (2,159点)
- **山内家文書** 萩藩士・寄組 (25点)
- **三浦家文書** 萩藩士・御手廻組 (21点)
- **佐藤家文書** 萩藩士・無給通 (600点)
- **興隆寺文書** 山口市 寺院 (28点)
- **近藤清石文庫** 山口市 国学者 (577点)
- **吉田松陰文書** 萩藩士・兵学者 (408点)
- **大村益次郎文書** 萩藩士・兵部大輔 (144点)
- **田中義一文書** 萩市 首相 (1,603点)
- **多賀社文庫** 山口市 神主 (1,475点)
- **右田毛利家文書** 萩藩士・一門 (1,943点) 他

行政文書

明治以降の山口県の行政に関する文書群です。明治初年から終戦直後に至るまでの県庁各課の文書を保存・公開しています。県政の歩みをたどり、山口県の近代史を研究する上で欠かせない文書群となっています。昭和20年の終戦を境に、以前を戦前県庁文書、以後を戦後県庁文書として分類しています。これらは、総務・教育・農業・商業・土木・警察・社寺・士族などの主題別や作成課別、簿冊完結年別（10年単位）で整理しています。このほかに、旧郡役所文書や県議会議事録などがあります。

- **県庁文書 (19,447点)**
明治期以降、山口県庁で作成・収受された文書群。
- **群役所文書 (931点)**
大正15年に廃止された郡役所の文書群。
- **市町村役場文書 (197点)**
山口市宮野支所、都濃郡須金村役場に伝来した文書群。

行政資料

明治以降、山口県が作成した刊行物を主体とする資料群です。国や県内の市町村が作成した刊行物も含まれています。これらは、その種類と形態により冊子・ポスター・リーフレット・地図などに分類しています。行政上作成した写真・フィルム・映画フィルム・録音テープなど、画像や音声の記録もあります。

- **冊子 (9,191点)**
主に山口県が作成した行政刊行物など。
- **リーフレット (405点)**
主に山口県が作成した広報印刷物・チラシなど。
- **ポスター (184点)**
主に山口県が作成したポスターなど。
- **地図 (1,169点)**
陸地測量部、国土地理院、県・市町村が作成したものなど。
- **写真 (15,300点)**
戦前期県庁内務部、戦後期県庁広報課作成のもの。

特設文庫

文書館が各種資料の特色とその利用を考えて設置した文書群です。寺子屋の手習本から現代までの教科書を集めた教科書文庫、近代の新聞を集めた新聞文庫などがあります。

- **県史編纂所史料 (2,847点)**
戦前期、県史編纂所が調査・収集した史料群。
- **一般郷土史料 (2,483点)**
県立山口図書館収集の郷土史料に当館が追加したもの。
- **軸物史料 (477点)**
戦前期、県立山口図書館が収集していた一般郷土史料のうち、軸装のものを別置したもの。
- **教科書文庫 (3,531点)**
明治期以降の学校教科書を集積したもの。寺子屋教本を含む。
- **文化財文庫 (2,694点)**
県教委に寄贈された文化財調査報告書等を集積したもの。
- **新聞文庫 (5,744点)**
諸家文書の中から近代の新聞を選出したもの。
- **雑誌文庫 (6,533点)**
旧県立萩図書館所蔵の資料を中心とした近代雑誌類。

山口県文書館

〒753-0083 山口県山口市後河原150-1
TEL083-924-2116 FAX083-924-2117 <http://ymonjo.ysn21.jp/>

利用時間

【開館時間】月曜日～土曜日 9:00～17:00

【閉館日】日曜日、祝日、月末整理日

年末年始（12月28日～1月4日）

春秋資料整理期間（4月11日～16日、10月11日～15日）

※文書館は山口県立山口図書館と同じ建物内にあります。

閲覧室へは2階へお上がりください。

※毎月の開・閉館日は、当館ホームページの閲覧室カレンダーをご覧ください。

